

2024年2月22日

株式会社 遠藤克彦建築研究所
代表取締役 遠藤 克彦 様

舞鶴市立東図書館を守る会
代表 森本 隆

(仮称)舞鶴市立中央図書館建設に対して

ESGの観点から基本設計業務への市民参画を求める嘆願書

はじめに

舞鶴市役所は西舞鶴駅近隣において、(仮称)舞鶴市立中央図書館建設事業を進めております。しかし、本事業は市民の強い反対を受けており、以下の理由により、ESG(Environment(環境)、Social(社会)、Governance(ガバナンス))の観点から貴社に対して基本設計業務への市民参画を求めます。なお、本嘆願書は市民とメディアに対して公開します。

1. 東図書館の廃止(スクラップ)により市民の図書館利用が困難になること

現在、舞鶴市には東・西2つの図書館があり、市民に利用されています。しかし、中央図書館建設に伴い、東・西図書館を廃止する方向で市は進めています。西図書館は中央図書館の近くに建設されるため市民への影響は少ないと考えられますが、東図書館は中央図書館から大きく離れており、東図書館利用者の中央図書館利用は非常に困難になります。東図書館が廃止(スクラップ)されると困るのは東図書館利用者であり、到底認められることではありません。

2. 市民に対する説明や合意形成が不十分であること

中央図書館建設に伴う東図書館の廃止について、多くの市民は知らずにいます。また、形式的に図書館市民フォーラムが開催されましたが、時間も限られたものであり、市民への説明や合意形成が達成されたとは到底言えない状況です。市民ワークショップも中央図書館建設ありきのワークショップであり、中央図書館推進派の市議がワークショップに参加するなど、実質的に反対派市民の意見を封じ込める体裁になっており、市民の意見を反映した計画ではありません。

3. 東・西図書館の有効活用がなされるべきであること

廃止(スクラップ)される東・西図書館は築年数が34年程度であり、まだまだ使える建物です。SDGs(持続可能な開発目標)に基づく脱炭素社会の実現に向けた環境にやさしい施設計画として、東・西図書館の有効活用を検討すべきと考えます。

4. 舞鶴市図書館基本計画が杜撰であること

中央図書館事業の根幹となる舞鶴市図書館基本計画は、利用された人口予想データが大きく誤っており、総務省発表の人口予想とも大きく異なっています。計画策定に参考利用されたと思われる他市のデータも、人口増加が進む大都市周辺の市町村のデータを使用するなど、人口減少が著しい地方(舞鶴)と比べるべくもないデータに基づいて算出された計画であり、机上の空論と言わざるを得ません。このような計画に基づいて中央図書館計画を進めることは、将来の舞鶴市にとって持続可能な計画ではなく、過度の負担を強いる計画となります。

5. 舞鶴市図書館計画協議会が市民を軽視した問題発言を繰り返していること

図書館のこれからを市民と共に考えるという体裁で開催された図書館市民フォーラムの後、開催された図書館計画協議会の記録(抄録)では、市民の意見を受け止めて検討すべき審議会の面々が市民感情を逆なでする発言を繰り返しています。

事務局は「計画は変更しない」、会長は「スタートから東西図書館はスクラップありき」、副会長は「市民からの意見は椅子の位置や水飲み場の位置ぐらいしか出てくる訳が無い」などと発言しており、市民を軽視する姿勢が露呈しています。このような発言をする人たちが考えた計画を、市民が受け入れることはできません。

以上のことから、株式会社遠藤克彦建築研究所に対して、以下の事項を嘆願いたします。

- (仮称)舞鶴市立中央図書館基本設計業務への市民参画

本嘆願書に対する回答は、**2024年3月4日**までに、舞鶴市立東図書館を守る会(担当:森本)まで、本紙記載のメールアドレス宛にご返答いただきますようお願いいたします。

返答先及び本件に関するお問合せ先

舞鶴市立東図書館を守る会 担当:森本

Email: Info@maizuru.site

TEL:090-8657-9128

ホームページ <https://library.maizuru.site/>